

令和5年度学校関係者評価委員会

1. 日時 令和5年6月10日(土) 13時～14時30分
2. 場所 101教室
3. 委員
 - 島根県看護協会理事 原 徳子 島根県臨床工学技士会会長 福田 勇司
 - 島根県理学療法士会 石田修平 出雲西高等学校校長 永島 弘明
 - 保護者代表 湯座 奈央 卒業生 代表 影山 元
 - 橋本学校長 (ZOOM 参加)
 - 神田副学校長 今村事務局次長 内井事務部長 落合教務部長
 - 鎌田学科長 荒木副学科長 加藤学科長 阿守学科長
 - 今市コミュニティーセンターセンター長 内田 祥一

(■欠席予定)

ZOOM (発信元出雲医療看護専門学校)

<https://zoom.us/j/99245353145?pwd=b1pUY0htUDlvd3JSV1lMcDNwMjZvQT09>

ミーティング ID: 992 4535 3145 パスコード: 670732

議事進行: 原 議事録: 加藤・鎌田

4. スケジュール

時間	内容	<場所>・準備など	担当
13時00分 (15分)	委員会 1) 開会 2) 学校長挨拶 (2分) 3) 学校関係者評価委員会の説明(3分) 4) 自己紹介(5分) 5) 議事 ①学校運営について (5分程度)	101教室	学校長 次長 各委員
13時15分 (75分)	②自己点検評価結果より 意見交換	【対応責任者】 I 教育理念・目的; 内井 II 学校運営; 内井 III 教育活動; 落合 IV 学修成果; 落合 V 学生支援; 内井 VI 教育環境; 内井 (実習関連含む) VII 学生募集と受入れ; 内井 VIII 財務; 次長・内井 IX c; 次長・内井 X 社会貢献地域貢献: 内井	① 次長 ② 次長 内井 落合
14時30分	6) 閉会		

【議事録】

学校長挨拶（橋本学校長）

コロナウイルス感染状況も収まり、出雲医療看護専門学校も平常時の学校運営が始まった。

コロナ禍ではオンライン授業と対面授業の組み合わせの中で、教育活動を実践してきた。コロナ禍においては委員の皆様方にご心配をおかけしてきた。本日は2023年度学校関係者評価委員会を開催する運びとなり、委員の先生方にご参加いただきましたことを改めて厚くお礼申し上げる。職業実践専門課程は2017年に文部科学省が、新たな創設した学校制度になるが、出雲医療看護専門学校を職業実践専門課程が認可され今年で5年目を迎える。現在の、全国専門学校では2721校あるが、認定がおりているのは1093校になる。40.2%は認可された状態である。学科数が全国で7288学科あるが、認定学科3165学科と43.4%になる。

職業実践専門課程は、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、専攻分野における技術に関する知識、技術および技能について組織的な教育を行うものを、文部科学大臣が認定することにより、専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的としている。本校は今年で創立11年目を迎えている。学校のミッションは職業人教育を通じて社会に貢献する、人間教育、国際教育を掲げて教育実践活動をしてきた。

看護学科は医療看護教育の実践活動を中心にしている。卒業生は493人、そのうち看護師免許取得者数は488人、免許取得率が99%である。理学療法士養成数が200人。理学療法士免許取得が175人。理学療法士の免許取得者数は87.5%。臨床工学技士学科の卒業生は130人。臨床工学技士免許取得者数は126人。取得率が96.1%。昨年閉じた言語聴覚士学科の卒業整数は84名。言語聴覚士免許取得者数は72名。取得率が85.7%であった。大阪滋慶学園では免許取得率を90～95%以上の取得率を目標にしている。

出雲医療看護専門学校は、島根県を中心に多くの仲間が病院や施設に勤務している。大変嬉しいことだと思っている。目標資格取得に向けて、学校は支援と就職内定100%を達成して行くので、委員会の先生方もご支援とご協力をお願いしたい。本日は令和4年度の自己点検自己評価の説明がある。意見をいただきましたら大変嬉しく思う。

学校関係者評価委員会の説明（今村次長）

私（今村）は出雲と鳥取市、美作の学校と、大阪の学校を兼務しているため、日頃は教務部長に事務部長、それから副学校長を中心に、学校の方が運営されているところにある。この学校関係者評価委員会は、もともとこの職業実践専門課程するにあたって必ず行わなければならない、いわゆる前年度の自己点検自己評価を外部の委員の方々に確認していただいて、より改善してよい学校にしていくこと。これをもとに就学支援学生の授業料の減免や、奨学金の減免制度も学校関係者評価によって変わってくるような大事な会議になっている。本日の学校関係者評価委員会の資料は、大項目の十項目について昨年度、学校が取り組んできた自己点検自己評価の方をお伝えする。後ほどあの説明をさせてもらうが、先生方には是非忌憚のないご意見頂き今年度令和5年度、それから次年度令和6年度に向けて改善していくため本日はよろしくをお願いしたい。

議事（司会進行：原）

原

委員数が全部で16名のうち、15名となっている。学校関係者評価委員会第6条2の要件を満たし、本委員会が成立することを報告する。会議の議事録を作成するため、本日の1部を録音させていただくのでご了承いただきたい。今回には1時間半と短時間ではありますが、貴重なご意見を頂戴しながら円滑に進行して参りたいと思うので、よろしくをお願いしたい。

まず議事に入る前に新入の先生方を紹介させていただきたい。今年度の委員交代があり新たに委員になられた方がおられる。昨年度の卒業生代表として委員に就任していただいた中尾様にかわり本年度より島根大学医学部附属病院に勤務している景山様に卒業生代表として参加していただいている。昨年度、高校の学校関係者の代表

として委員に就任していただいた吉田様にかわり、出雲西高等学校の校長永島様にお願いしている。

自己紹介（福田→石田→永島→湯座→景山→原→落合→内井→神田→今村→加藤→鎌田→荒木→阿守）

原

今市コミュニセンタースンター長をされている打田様は本日欠席となる。

原

それでは自己点検自己評価の資料を基に、まず事務局の方から説明をいただき、それについてご質問、ご意見をいただきたいと思う。

内井

I、教育理念・目的

学生便覧と教育指導要領をホームページで情報公開をしている。建学の理念、人材育成において教職員各自が理念をもって対応することが重要である。業界ニーズに合わせた教育と3つのポリシーを定めて専門職教育とキャリア教育を行っている。実習先や就職フェアを通して業界のニーズをもらい最大限答えられるようにしたい。

本校の特色である教育は入学前教育のプレカレッジをはじめ在学中の教育、卒後のポストカレッジを行っている。

在学中に海外研修プログラムの実施や卒業課題研究を導入し、業界の先生方や外部講師、保護者の皆様に多数視聴できる機会を作っている。

社会のニーズに合わせて ICT 教育では教科書などの電子化が進んでいる看護学科が導入し、タブレットを 1 人 1 台持たせ授業展開をしている。スムーズに運営できるようにサポートできるのが課題と考えている。

II、学校運営

本校の基本方針として1つ目はグローバルな視点、そして2つ目は生涯教育、3つ目が業界・業種を見ていく視点、4つ目が、スタッフが成長していく視点、5つ目が事業運営力を持つ視点、6つ目が1人ひとりを見ていく視点、7つ目が、地域とともに発展していく視点である。基本の数字は入学者数、退学率、そして就職内定率、学費未納率、国家試験合格率と、これらの数字を大切にしている。教職員で意識を統一して、達成に向けて務めている。今年、事業計画を定めリスクマネジメントを行う。組織の中で1番重要なことは新しいスタッフの人材育成である。環境整備をしっかりと行っていきたい。

学園法令にのっとり理事会協議会の開催をして、各校の状況を見ながら運営している。理事会協議会の会議をもとに各校で会議を行い、各学科で会議を行うシステムである。それぞれ情報共有をしてはいるが、さらに企画を出し、情報共有に努めていくことが課題と考えている。

学生の情報共有はAS400を導入し管理をしている。高校入学前、在学中、卒業就職などを管理しており、各賞職員がパスワードを使ってアクセスできるようにしている。今後そのシステムをさらなる活用ができないかなどを検討しているところである。

落合

III、教育活動

教育方では、学生に指導要領で人材養成目的目標を明確にして、3つのポリシーの設定をしている。具体的な数字としては、退学率、進級率、卒業就職率、国家試験の合格率を目標としている。年間教育プログラムに取り組むことで知識の習得や国家試験および就職に対して多数の教育システムを構築している。

学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会での意見を参考に検討を重ねて教育改善を図っていく必要があると考えている。カリキュラムの編成については国家資格系の養成施設として規則に基づき、指定規則が定められているため、授業形態や教育内容など効率よく取り組むことができる。非国家資格系の学科では幅広い就職希望が求められるため、多くの資格取得ができるように柔軟性を持って学習できる体制になっている。教育課程の見直しに伴って、学生の背景や学習習慣などを考慮し、引き続き教育課程編成委員会や臨床臨地実習での先生方の意見を反映させながら、業界ニーズに合った人材のために、独自のカリキュラムなどのものを確立していく必要があると考えている。

キャリア教育については、入学前から卒業後までをキャリア形成、キャリア設計、キャリア開発と考え、キャリアデザイン講座を1年次に実施している。1年生からの意識づけが重要になり、キャリアデザイン講座を実施して、卒後教育、卒後勉強会や研修会を同窓会に絡めて実施していきたいと考えている。

授業評価は授業終了時に授業ことに実施している。終わったものから担当教員にフィードバックしているが、非常勤講師にフィードバックができていない現状があるため、今後は一緒に授業のフィードバックをしていく必要がある。成績評価については学則に基づき、卒業判定会会議や進級判定会議等を実施し、成績表の管理人を行っている。

卒業課題研究発表では作品及び研究成果等の発表を業界、保護者に発信している。昨年度より学内選考会を実施して優秀演題を全員で選考できるシステムを作っている。今後はパネル発表など多くの演題が発表できるように検討している。

看護学科、理学療法士学科、臨床工学技士学科の、国家資格系では、国家試験取得を最重要重要目標として位置づけている。全員を合格させることが前提として、国家試験対策委員会を立ち上げ、4月より活動を開始している。実習指導者との連携や低学力者への対応、不合格者への卒後フォローにも尽力している。個々の対策の構築が必要である。

また、教員不足がある学科に対しては採用計画をかけて計画的に充足をしていく。教員の資質向上についてのグループの滋慶教育科学研究所からのFD研修など教職員のレベルに合わせた研修に参加できるようにしている。それと合わせて即納団体など外部の研修など参加ができる環境を維持して行く必要があると考えており、教員の組織体制については学校長を責任者として現場の統括を教務部長、学科の運営を学科長中心にした組織の運営体制となっています。組織図がありまして、それぞれの部署役職の業務分掌で業務の役割をお願いしている。

IV、学習成果

就職の向上については、毎年100パーセントを継続している。また最終学年だけでなく在学中から就職意識の向上にしてさせている。求人件数の状況は県内県外問わず増加傾向にある。特に看護学科は県内就職率80%を維持しており、さらなる求人の開拓をして県内就職を強化して行きたいと考えている。

グループの国家試験対策センターや各教育部会で国家試験100%になるための取り組み、低学力者のフォローのあり方や入学前教育、1年生での学習定着などを学校として、システムを再構築して行きたいと考えている。

卒後について業界訪問や実習先訪問、卒業生の確認は行っている。さらには就職先に卒業生に対する動向調査を実施している。社会的評価について全て把握しているわけではないが、業界等や卒業生とのつながりで情報を得ることはできる。同窓会の開催で卒業生の状況を確認するとともに学ぶ機会を増やすことが必要と考えている。

V、学生支援

就職に対する体制についてはキャリアセンターを設置し、キャリアセンタースタッフと情報共有をしながら進めている。学生の活動状況を確認しながら個別面談を実施。大阪の就職フェアの有効活用も検討していきたいと考えている。

メンタル面が弱く退学につながるケースが多い。キャリアサポートアンケートの活用や日々の学生の声かけ

などから早期の変化に対応して、すぐに面談を実施するなどの対応している。こ退学者減少のためにこれらの対応をして、カウンセラーや各種サポートセンターにつなぐシステムなど構築をして行く必要があると考えている。学校カウンセラーやグループのトータルサポートセンターが運営している。

奨学金として大阪滋慶奨学金では卒業生や在校生が兄弟で入学していた場合、10万円の給付が行われている。また、日本学生支援機構の修学支援制度を活用し、遠方からの入学は一人暮らしの支援活動として、本校の学生専用アパートを学校説明会やオープンキャンパスで紹介をしている。現在はシェアハウスも設けている。

保護者との連携については学校行事として、毎月4月、9月と保護者会を行っている。4月は3年生、9月は1年生と2年生の保護者会を開催している。そのほかにも気になることがあれば、その都度電話や来校をしていただき面談を実施している。

卒後教育としても同窓会組織を設置している。令和5年度は同窓会を実施し、基調講演を予定している。

資格取得者の取得支援については教育の計画準備を行いリカレント教育として、滋慶医療科学大学・大学院の設置をしているので、研究などができる体制をとっている。

社会のニーズを把握し、単位認定や経済的なサポート、職業実践など教育訓練給付金を全学科対応になるように努めている。

内井

VI、教育環境

設備はグループと修繕計画を共有しながら安全安定したその管理を行っている。最近では校舎に雨漏りがあったため壁一面の補修工事が終わった。今後教育のために設備投資や修繕などを充実させていきたい。学科の必要備品は物価高騰などもあったが今年度は充実させていきたいと考えている。

実習についてはコロナ禍でも実習先の先生方のご配慮もあり実習を行うことができた。それぞれの目的を明確にして資質向上をするために実習指導者との意見交換をしてより良い人材育成をしていく。

海外研修ではコロナ禍で海外渡航が難しい。昨年まではオンラインで実施をし、国際的視野や現地との学生交流できる機会を増やしている。最終的な国際完成を支援していくことが重要であると考えているので今後充実させていきたいと考えている。

防災に関しては危機管理マニュアルを整備し、緊急時の体制の構築や運営できる消防避難訓練を毎年1回行っている。昨年は11月に火災を想定した訓練を行った。今年度は2回行う予定であるが、新入生に避難経路を知ってもらうために5月に実施。今後は避難訓練の告知をせず実施してもよいかと考えている。

学園として安全管理体制の一環で安否確認システムの新システムを導入。全学生に登録が済み。もう一度全体にテストメールなどをして運用を確認する。

VII、学生募集と受け入れ

次に7項目目の学生募集。本校の1番のターゲットとしてはや島根県と鳥取県西部、広島県北部になる。広報担当者と中心に学科教員にも協力をしてもらい在校生と卒業生の情報交換を行っている。昨年度はコロナ禍もあり、346件の訪問となったが、随時高校へ足を運んでいきたいと考える。入学前教育の一環で中学生や高校生への職業理解などを学校やガイダンスを通じて行っている。

職能団体に協力をしてもらい、イベントを開催。今後コロナ感染者が落ち着いてきたため、病院見学なども進めていきたい。併せて学内での戴帽式などのイベントも見学できるようにする。

学生募集については専学連の基準に基づいて来月からのAOエントリーを行う。入試日程については高等学校の要望も聞きながら進めている。それぞれのニーズに合わせた入試形態をとっている。

大学入試の早期化も進んでいる。本校に興味を持って資料請求をしてくれている高校生が減少した。大学入試などの動きが読み切れておらず大学の方に入学生が流れてしまった。それぞれの入試形態はあるが、大学入試が

早期化したため、AO入試に力を入れていきたい。

入試の結果を一覧表にしている。プレカレッジなどで専門科目の復習や入学後のサポートにつなげられるような入学前教育学習を構築していきたい。

今村

VIII、財務

項目で財務基盤が安定しているか、財務分析を行っているか、予算書して作成しているか、予算の執行きちんと回っているか、私立学校法に基づき適切な監査をしているか、情報公開体制を整備していつかという項目である。

大阪滋慶学園として大学院、それから大学、通信制の高校、専門学校で黒字をだしている。しかし、医療看護専門学校については赤字である。やはり学生募集が募集定員に到達していないところであるため、学校としてはそこが収入になる。その収入が低いがために、支出を抑えてもどうしても経営が難しくなってくる。この中項目のチェックは学校法人のことについてなため、ほぼ適切に運営されている。

予算及び計画に基づき、適正に管理を行っているかということで収入が少ないため、経常予算の修正を行っている。

内井

IX、法令との順守

学園としてコンプライアンスを重視している。各学科にある指定規則を意識しながら教育を行う。

個人情報については個人情報保護委員会を立ち上げ学校長を中心に取り組んでいる。職員と学生はITリテラシーの授業を受けてもらい、職員は日本プライバシー機構の認定更新を毎年行っている。

自己点検自己評価は平成28年より実施。昨年度は第3者評価を受け6月に掲載予定である。自己点検自己評価の記録は毎年ホームページ上で公表している。自己点検自己評価のほかに学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の規定に基づき改善点などもホームページ上で公開している。

X、社会貢献と地域貢献

社会貢献貢献ということで、本校の建学の理念に4つの信頼があり、その中に地域からの信頼がある。地域から信頼されるために学生が地域に出ていきボランティア活動を行っている。昨年度までコロナ禍であり、ボランティア活動ができなかった。しかし、昨年度後半から地域の方も来校し、健康講座や学園祭などで交流ができたのではないかと考える。

職能団体の皆様にも教室の貸し出しを行い、セミナーや勉強会なども開催できた。

ボランティア活動の一環としてペットボトルキャップを集め寄附を行った。

海外研修プログラムは1週間あるが、現在はリモートである。海外渡航が困難になってきているためリアルな学生交流ができていない。学生としては行きたいができないという状況である。出雲市は外国人が多いため、外国人などとの交流もできないかと考えている。多様な価値観を身につけてもらい卒業してもらいたい。

原

以上で説明が終了。意見があれば質問をお願いしたい。

福田

自己点検自己評価の評価表は後日評価したものを学校に返信すればよいか。

この自己点検自己評価の評価方法をどのような方法で強化したのか。

今村

評価表は後日郵送してもらえれば問題ない。

評価対象者は評価表に基づいて役職者が行った。

福田

4、できている。3、ほぼできているの違いはなにか。

今村

8割ほどできているものを4 60%~80%のものを3としている。

福田

課題に挙げている内容が毎年同じであるため、前年度課題に挙げている内容がどうだったかなどをみて今年度は昨年に課題に挙げたことができたかの評価がみれるため昨年度課題ものっていると比較しやすい。

評価が2であれば去年から改善できていない

今村

フォーマット自体が決まっているため今後別紙という形で準備できないかを検討。

石田

入学前教育のプレカレッジが印象にのこったが、プレカレッジの具体的な内容は何か。

リハビリテーション職は高校生と接することが多いため、高校生に理学療法士になるならどの学校がおすすめかを聞かれることがある。

落合

プレカレッジは入学前教育であるため合格が決まった学生に対して入学までの所で、スムーズに学習意向ができる流れをつくるために基礎知識、国語・数学・生物などの基礎的な内容の学習を行う。現在コミュニケーションが取れない学生が増えているため各学科に分かれて友達作りを兼ねてグループワークを行っている。

月に1回から2回程度、土日を使って来校して開催している。

石田

合格された学生が全員参加になるのか。

落合

極力本校を合格した学生に参加をお願いしている。7回程度あるが最初は部活などで参加できなくても3~4回は参加してもらっている。

原

いろんな学科があること強みだと考えるが学科間交流があるか。

学科の中で強みを活かしてもらえれば学生募集につながると考える。

落合

三瓶研修など学科の垣根を越えた取り組みも行っている。

石田

島根県理学療法士会では学生に参加をしてもらえるような取り組みを行っている。前回開催した島根県理学療法士学会では出雲市民を対象に地域の皆さんに体力測定を学生に実施してもらった。出雲医療看護専門学校の学生には1名参加してもらったが、地域の方とのつながり・専門職とのつながりも学生の時からもってもらいと将来錠が見えてくるため声掛けをしてもらいたい。

永島

I C T教育で電子教科書導入が記載されている。

電子教科書の導入であるが紙媒体を選ぶのか全員タブレットを持たせての電子媒体なのか。

今村

電子教科書のソフトがきっちりしていればタブレットを導入している。看護教育が電子教科書の導入が早いいため現在看護学科は全員タブレット教育を行っている。

学生は学科に応じたデバイスを購入して在学中に使う。

永島

紙ベースの教材が良かったため出雲医療看護専門学校を選んだ学生がいる

I C Tだからといってすべてを押し付けるのではなく自分の考えで選択することが大事ではないか。

選択する部分もあればよいのではと考える。

修業年限に応じた教育到達レベル、学科間格差の見直しと記載されているが、学科間によって学力がかなり違うのか。

今村

国家資格と非国家資格系の到達目標があるため科目として評価をするべきである。

現在国家試験系に合わせているため非国家試験系の到達レベルの設定ができていない。

永島

成績の所の評価について高校では筆記試験で全てが評価できるわけではない。テストの点数で測れない評価はどのようにされているか

ルーブリックなどの導入をしているか。

落合

ルーブリックの導入はしていない。臨床実習にはそれぞれの評価基準を決めている。その基準を学生や保護者にも公開している。

永島

ルーブリックを作っているがテストの点数で測れないものの目安の提示をして評価の公平性を保っている。

評価の仕方を工夫していかないと教員の主観で評価がないようにしなければならない。

今村

専門学校として難しいところで国家試験はすべて筆記であるため実習評価について難しいところである。

介護福祉士などの人と接しながら学ぶ国家試験は全国平均 30% くらいしかない。

国家試験対策で授業を行うのと実習への時間を割くものとバランスが難しい。

永島

学校の中に人間性教育をうたっているため評価基準があれば評価しやすいのではないかと感じる。

入試についてアドミッションポリシーとの関連性で入試を行っているがクラブ推薦とアドミッションポリシーとマッチしてないと感じている。

クラブ3年頑張ったところでアドミッションポリシーに合致しないと感じる。

ボランティアなどに尽力をした学生などアドミッションポリシーや学校の基準にあった入試形態にしてもらえればと感じる。

内井

もう一度見直し検討していく。

湯座

昨年娘がこちらの看護学科を卒業したが、国家試験取得講座など学園としての支援が充実している。

1週間に1回の講座やグループ分けの支援、課題をこなすことで合格に向けて進めていくことができた。

教職員の応援メッセージもあり、学校全体で応援していることを実感した。お世話になったと感じる。

落合

国家試験について教員ができることは勇気づけないためそのように言っていただけのはうれしい限りである。国家試験に関しては1年次から対策している。続けて対策を行うことで3年生になって困らないでもよいように国家試験対策委員会などで修正しながら行っている。

医療総合は検定対策を行っている。

個々の教員が個人のことをするだけではなく教職員が一丸となって国家試験合格に導いていく。

景山

プレカレッジや海外研修・学園祭や地域貢献の内容を評価用紙でまとめるのは難しいと思う。

それぞれの内容を別紙でまとめて報告した方がよいと思う。

ICT教育について看護学科がタブレット教育を導入しどのような反応があったか。

落合

4月から始めているがスムーズに操作ができている。操作に困ったということ聞いてはいない。

タブレットであるため書き込みもでき、スムーズに行えている。

成績に関してはこれからのため、1年後の振り返りが必要である。

景山

1年後の結果を見て検討してもらえたらと感じる。

海外研修の交流についてオンライン交流とはどのような内容をしているか。

落合

オンラインについてはアメリカの提携校と協力をもらい先生方や学生の方とオンライン上で講義をしてもらったり質問のやり取りをしたりをした。英会話も入っているため英会話も導入しオンラインを行っている。

景山

早急に海外研修に行くのは難しいが行ってみると医療の知識だけではなく文化やコミュニケーションなど世界が広がる経験になるためオンライン交流も充実してもらえたらと感じる。

在学中の社会基礎力や就職してからの人間関係などの教育はどのようにしているか。

落合

キャリアデザイン講座の授業を設けマナーなどの基礎的な所から社会人基礎力の講座を入れている。外部講座をいくつか入れて教育をしている。マナーなどは日々の学校生活や日常的に指導をしている。

景山

近年の学生は社会人基礎力が落ちているように感じる。社会人基礎力があるということは在学中に勉強できて学校の評価も高くなると感じるため充実させてもらえたらと思う。

今村

海外研修を行うにあたり2つ問題ある。

1つ目は物価高で現在徴収している金額の倍近くの70万円くらいかかるためどのような形で戻していくか。

2つ目は受け入れ先の問題もあり、提携大学が国際事業部をつぶしているため新しいところを解体しなければならない。

来年から再来年から海外での研修を検討していく。中国などアジア系は国際関係ができる。11月にアジア臨床工学フォーラムがあり、アジアなどの海外研修も視野に入れなければならない。

原

メンタルヘルスに関してどこの職場でも悩む方が多く対応はいろんなところで考えている。

組織として大阪にあると聞いたが学生から先生に相談できる学生はよいが、誰にも知られたくない学生もいるためプライバシーを守りつつ組織なメンタルヘルスがあれば教えてほしい。

落合

滋慶のトータルサポートセンターへの案内はしているが現在使用している学生はいない。命に関わること以外は学校にフィードバックはない。

学内でも臨床心理士につきに何回かはきてもらう。学校側で予約を取るが内容については命に関わること以外は学校との共有はない。

原

プライバシーを守りつつ学生を守るものがあればよい。

福田

この学校関係者評価委員会を通しての要望であるが、国際交流があり、臨床工学技士養成校は島根県唯一であり、地域密着型であるが、少子化も進み人材確保が難しい。そこで学校がどのようなことをやっているかをオープンにしてほしい。多団体とのかかわりなどに密着し人材育成と人材確保ができればよいと考える。

地域に根付く必要がある。関東・関西に人が流れてしまうと入学する学生も少なくなり経営的に維持できなくなる。高校から在学卒業した後の一連の流れや特色を活かした一連の流れができるとうい。

学生と教員の密着度が高いというのは売りであると感じる。

素晴らしい人材が島根県に残ってくれるのは宝なのでいろいろな場所に働きかけられるとうい。

原

委員の皆様から意見をいただいたので 学校の方で検討をお願いしたい。

副学校長

貴重なご意見をいただき福田様より前年度の比較の見える化が足りていないという県は次年度につなげていきたい。

石田様から各業界とのつながりについては、臨床で活躍された方が教員で採用されているため連携できればと考える。

永島様からIT化やDX化についてはまだまだであるが、使う学生の方が長けている。教員の方も勉強しながら連携が取れなければならない。

昨年度から高校の先生に公開授業などを行っているため忌憚ない意見をいただいて更新していく。

湯座様から保護者として教員として両方の角度から励まされる意見をいただき感謝している。

景山様から卒業生代表として現場とのつながりが必要と考える。

原様については、司会を担当してもらい看護協会看護連盟とのつながりで施設を利用してもらっている関係で教員だけではなく学生との交流もできている。

中学生の時から体験などで参加させていただいている。

地域や在宅も全国的に問題があるが看護協会が支援センターを立ち上げたという機会ももらった。

各団体と深い関係ができればよいと考えている。

終了